

砂川で基地拡張反対現地闘争

全学連(三派系)機動隊と激突

28日双方で約百人が負傷

五月二十八日、立川市砂川町西番の立川基地拡張予定地、日共系の集会和反日共系一派の全学連の「基地拡張反対決起集会」がそれぞれ開かれた。日共系の集会は正午すぎ約三万人(本学から約二十千人)が参加し、安部徹衆議院議員実行委員会主催の「ベトナム侵略反対・立川基地拡張阻止・米軍基地撤去要求決起、五・二八砂川大会」を開いた。また、反日共系の全学連である三派系全学連(秋山勝行委員長・横濱国大四年)は同所にて午後二時から「砂川基地拡張阻止五・二八青年・学生報復集会」を約三千人(本学から約五百人)が参加して開催された。一方、三派系全学連(成田麻治委員長・大文四年)も二百餘名を集めて約五百人が参加して集会を開いた。その後三派系全学連は三毛に移り、江戸島ゲート周辺で機動隊と激しく衝突、双方合わせて百人もの負傷者が出た。多岐見、学生四人が公務執行妨害で逮捕(うち本学一人)された。

本学から二百人が参加

三派系全学連の集会は午後一時参加のもと開かれた。本学もの約二百人が参加した。集会はまず立川市立川町の代表から基地拡張反対の訴えを述べた。



者の挨拶に始まり、全国反戦青年委員会から、ベトナムの後継基地となる立川基地拡張を絶対阻止しなさい、という旨のスピーチがなされた。午後二時四十分、革三派系全学連約五〇〇人が到着し、一時は緊張したムードが漂ったが、地元の高岡雄雄砂川基地反対同盟部長が説得に回り、両派別々に集会をもった。この後、「砂川基地拡張反対阻止」をテーマとした集会が開かれた。機動隊は江戸島ゲート付近で待機中、機動隊と衝突した。最初、三派系全学連の機動隊と衝突した。機動隊もまたじりじりとしたが、激しいもみ合いの末、道路片側に学生は追い込まれ、サンドイッチにされた。このもみ合いで学生二十八人が頭部を打って重傷したほか、双方にケガ人が続出した。この後、機動隊にはまた三派系全学連、基地拡張反対のシンプレコールで氣勢をあげながら立川駅へ向かった。

立川駅前メインストリートに上は砂川町の四番で開かれた三派系全学連の集会。下は江戸島ゲート付近で三派系全学連と機動隊の衝突

一日、学生部と仮調印

学館 暫定取決案と覚書を

本学学生会特別委員会、学生 選定をめぐる暫定取決案の一 会館運営委員会(春山武委員長)一部役員について話し合い、この結 論(五月二十七日、午後五時 果月二日に暫定取決案と覚 決り)について、覚書を取り交し 部委員会(藤野武委員長)と 書(別紙)の仮調印を行なう。 同時に関、生田学館長と 学館の管理運営をめぐる取り決ま ることが決まった。また、助成金 案(和泉、生田の学館問題)の 学館助成金一についての交渉を 行なった。

この日、学生部から春山委員長 をはじめ委員八人、学生部 側は藤野委員長、大島田八、高 橋直樹副学部長八人が出席 して行なわれ、七百、学生部委員 会と一応の取決案と覚書の管理

特別委員会の側で、明治大学学生 会館の管理運営に関する暫定取 決案について話し合い、この結 論(五月二十七日、午後五時 果月二日に暫定取決案と覚 決り)について、覚書を取り交し 和泉学館長と生田学館長と 同時に、生田学館長と 学館の管理運営をめぐる取り決ま ることが決まった。また、助成金 案(和泉、生田の学館問題)の 学館助成金一についての交渉を 行なった。

この日、学生部から春山委員長 をはじめ委員八人、学生部 側は藤野委員長、大島田八、高 橋直樹副学部長八人が出席 して行なわれ、七百、学生部委員 会と一応の取決案と覚書の管理

覚書一、学生部と学生会館

入る頃から三派系機動隊のスキ をみて、投げかけ足行進を行な い、基地正面ゲート付近になると この投げが一層激しくなった。こ の地点で三派系機動隊は急ぎ込み、 機動隊はゴボウ技を始めた。し かし再び学生はスラムを組んで 駅方面に向った。この間、曙町・ 中武デパート前で機動隊が押し した学生二十八名を投石網の前面に 押し出し、学生の投石を防ぐという場 面も生じた。

午後八時三十分、三派系はウズ 巻きデモの後、駅前(芝川)に繰 りかえり九時過ぎ解散した。 このデモにより学生、機動隊双方 に百人近い重傷者を出し、秋山 勝行委員長をはじめ約四十八名の逮 捕者が出た。うち本学関係者一名 が逮捕。

一方、日共系は安部徹衆議院議員 実行委員会主催の「ベトナム侵略 反対・米軍基地撤去五・二八砂川大会」を約 三万人が参加して開いた。

野坂共産党副委員長ほか、日共系 全学連平田委員長ほかが参加した。 午後三時から日比谷公園野外音楽 会場で約千人の参加のもと、砂川基 地拡張阻止・都公安条例廃止をス ー・オンに「第二派系学生機決 起案」を開くとしたが同音楽 会に付随して三派系全学連が一全部

生機決起案を約五百人が出 席し行ない、会場を使用した ため、三派系全学連は会場前 会場を閉鎖し集会を開いた。し かし、会場の騒い合いで騒を起した 革三派系全学連が三派系集会にデモ をかけたため、双方アラウンド、 騒ぎを直闘になり、数人の負傷 者を出した。この騒ぎ後、両派の 学生は日比谷公園水谷公園まで散 散した。

三派系全学連は五月二十六日、 午後三時から日比谷公園野外音楽 会場で約千人の参加のもと、砂川基 地拡張阻止・都公安条例廃止をス ー・オンに「第二派系学生機決 起案」を開くとしたが同音楽 会に付随して三派系全学連が一全部

日比谷で乱闘

全学連二派が

新委員長に滝沢君(文)

学苑会定例大会開かれる

学苑会中央執行委員会(夜間部) 三十一日、午後八時三十五分から
学生自治会、昭和四十三年 駿河台本校九十一番教室で約三百
名参加して開かれた。



今次は毎年春・秋、回開かれる定例大会で、二・二協定を決議した三月二十四日の臨時大会(次いで本年二度目の大会)である。この大会前より、部政経・文学会を中心とした主流派と、部法・商学会の反主流派との抗争は熾烈で、両派とも激しい集約が展開され、予断を許さない状況で行なわれた。

大会はまず議長団の選出(上原博男(政三)の再選)と採決され、高橋誠太郎(文三)、鈴木勇作(法三)の両氏が議長団に選ばれ、上原君が議長になった。午後六時三十分、定足数の確認が行われ、定員二〇九名のうち出席代議員二〇九名、委任状二千三通で大会は成立した。ここで資格審査委員会より、副会長から選出されている身代り代議員(代議員が卒業・退学した)を五月三十一日に開かれた学苑会学生大会

め代り(出席)は認めない旨の声明がなされた。これに対し、主流・反主流間で激しい応酬がなされ、採決の結果六五対六一の僅少差で認めないことが決定した。引き続き近藤義典中執副委員長から学員紛争の経過報告がなされた。

この後、駿台法学会、商雄会、政経部、文芸部有志からそれぞれ、対策が提出された。資格審査委員会はこれを認めないことと

発言したところから会場は再び騒然とした。結局、対策を取りあけるか否かを採決することになり、七四対四八で認めないことが決まった。午後九時十五分、新坂隆昌(法三)君から緊急動議として議長不信任案が提出され、七七対六七で否決した。続いて酒田征夫中執委員長から学費闘争の中間総括がなされた。この時昭和四十一年度後期の決算の承認、新入生歓迎実行

小森君が委員長代行

学生会 中執 一・二・三 是否は今後討論で

五月二十三日・二十五日の中執会議は、農・工学部中執委員の欠席により流れたが、小森純男中執副委員長が多数の中執委員の再度の呼びかけにより、六月三日午後一時二十分から自由校舎第三部学生会室で約四百名が出席し中執会議を開いた。

この日、出席した中執委員は十四名(大内副委員長は欠席)が委員任で、議題は①委員長の代行制②学費闘争の会計報告③学館問題

委員会報告、五・二八砂川闘争報告があり、質疑応答を繰り返した後一括提案として決裁方針、教育方針、任務方針が中執委員の提案通り可決された。次に最終議題である中執役員的人事案が提出され、採決の結果承認された。この新役員は酒田委員長が退陣し、滝沢征宏(文四)君を中心とした若手ブレインで固められている。このあと二・二協定協定破壊など十五項目のスローカンを採択、午後十二時大会を終了した。新執行部は次の通り。委員長 滝沢征宏(文四) 副委員長 近藤義典(文三) 同 藤本 健(文二) 事務局長 鈴木雄作(法三) 財政部長 山口晴雄(政三) 情報部長 菊

五月二十三日・二十五日の中執会議は、農・工学部中執委員の欠席により流れたが、小森純男中執副委員長が多数の中執委員の再度の呼びかけにより、六月三日午後一時二十分から自由校舎第三部学生会室で約四百名が出席し中執会議を開いた。

この日、出席した中執委員は十四名(大内副委員長は欠席)が委員任で、議題は①委員長の代行制②学費闘争の会計報告③学館問題

委員会報告、五・二八砂川闘争報告があり、質疑応答を繰り返した後一括提案として決裁方針、教育方針、任務方針が中執委員の提案通り可決された。次に最終議題である中執役員的人事案が提出され、採決の結果承認された。この新役員は酒田委員長が退陣し、滝沢征宏(文四)君を中心とした若手ブレインで固められている。このあと二・二協定協定破壊など十五項目のスローカン

三君、起訴事実を黙秘

「お茶の水駅事件」で初公判

さる五月十日、本学学費値上げ紛争の一環として国鉄・お茶の水駅構内で行なわれた「入試阻止抗議行動」により、建造物侵入罪・都公安条例四四号・集会、集団行進、集団示威運動に関する条例違反として起訴されていた成島忠夫君（静岡大四年）、伊川駿夫君（慶大一年）、堀越孝彦君（本学文学部三年）の初公判が、六月十七日、午前十一時五十分から、東京地裁刑事二工部部高橋裁判所で五〇二法廷において開かれた。

この日の公判は本学学生ら約四十名が傍聴する中で行なわれ、まず検事側から起訴状の朗読がなされた。これに対し、被告の三君は起訴事実について黙秘した。そして、「お茶の水駅事件の事実を単に述べただけでなく、現在置かれている大学教育の位置、国の政策の貧困、私大経営者の營利主義などの背景にまでさかのぼって判段を下してほしい」との要望を裁判長に伝えた。なお、第二回公判は七月七日、午後一時から同法廷で行なわれる予定である。

お茶の水事件とは 去る二月二十

日、二部共闘会議のメンバーと三派系全学連の学生約三百人が国電お茶の水駅に結集、スクラムを組み、西口階段を上り西口改札口前ホールで五列位の隊列で同ホール内壁足湯着行進をし、座り込んだ。このため折りからラッシュ時だったお茶の水駅ホームは乗客であふれ大混乱となった。こうした状況下に国鉄は運行停止措置をとり、またこのままの状況下では不測の事態発生のおそれありとして、機動隊に実力行使による学生排除を要請した。構外に押し出された学生は一たん解散したが、その後再び東京医科歯科大学に約百

駿台文学会学 駿台文生大会が開く 学会（夜間部学生自治会・福田信夫委員長（二年））では二十一日午後六時から二部文学学生大会を新学生会館五階ホールで開いた。また大会は議長団選出に始まり委員長挨拶、学費闘争経過報告、国内外情勢分析、財政報告、今後の任務方針などについて討議・検討を行なった。続いて執行部より新人事案の提案がありこれを可決、砂川基地拡張反対などのスローガンを採択して大会を終えた。新執行部は次の通り。

委員長 大野 隆男（二年）
副委員長 百武 俊博（二年）
事務局長 池田のりお（二年）

五十名が集結。工費用丸太を持った学生を先頭に駿河台通りにデモ再開、お茶の水駅前約九百名の機動隊と衝突した。しかし小グループに分断され、駿河台周辺から遠く離れてしまった。この騒ぎで中央線・総武線などのダイヤが大幅にみだれ、約三万人の足を奪ったといわれる。また学生、機動隊との激しい衝突合いで、読売新聞社カメラマン一人を含む一般人が負傷や、軽いケガをした。

学費紛争で大量処分発表

退学者(18)を含む21名

法人理事会は近く辞任か

二十五日午後、小出学長が、退学十一名を名付学生十二名の大量処分を総務会・和泉・生田三区でそれぞれ発表された。この処分は、昭和十二年十一月、和泉学園編成を機として約二十日前に決した。昭和十二年学費増徴をめぐる学費紛争の発生を問われたもので、今回の処分は昭和十七年離脱闘争以来初の出来事である。また、この日には二十五日、和泉学生総連会に生じた、離脱闘争に対する処分も発表された。これに対し、学生側代表団

時に午後五時かどはなむ学部の臨時会員の倉藤潤が、小出学長との会話を申し入れた。この臨時会中は中止、代って離脱学生連盟との間に開かれた。なお、今退学は処分撤回闘争、多岐、ハスや撥棄本コートに入る態勢組むと発表する。一方、理事会は前日からの交渉通り、七月初旬までは総連議するものとされている。なお、離脱学生(二、一四八号)参照。【写真見出しの掲載要否】



処分学生氏名

【和泉学園関係処分者】▽退学

- 中村正(退学部) 小林正彦(退学部)
- 田中浩二(退学部) 齊藤孝彦(退学部)
- 野村浩二(退学部) 小森紀男(退学部)
- 川原浩二(退学部) 新太(退学部)
- 田中浩二(退学部) 大内浩二(退学部)
- 野村浩二(退学部) 野村浩二(退学部)
- 野村浩二(退学部) 野村浩二(退学部)
- 野村浩二(退学部) 野村浩二(退学部)

【和泉学園関係処分者】▽退学

- 小森正彦(退学部) 田口真人(退学部)
- 田中浩二(退学部) 野村浩二(退学部)
- 野村浩二(退学部) 野村浩二(退学部)
- 野村浩二(退学部) 野村浩二(退学部)
- 野村浩二(退学部) 野村浩二(退学部)

告示

昨年十二月十五日開催された「学費増徴反対闘争」は、パレートの機軸に学費増徴の強制、教養・研究の削減、理事・教職員の間での人殺しの命令、機軸の奪取、機軸の強硬、強硬の強制、学費増徴、不協定、さらには学費増徴の阻止の命令、学生運動ともあるべき、極めて多くの違法行為、大学の秩序を乱し、その機能を停止させた。

大学は研究・教育の機関として、このような違法行為を許すことはできない。

よって、これら連年の暴行が学費増徴委員会及び全部共同会の責任とする判断から、またこの二組織に対し、懲戒を命じたが、今回学費増徴の機軸増徴、上訴の違法行為は機軸の責任とする認められ、学生及び離脱学生に限り、主要な役割を担った学生を、学費増五七条により、五名のより懲戒処分とする。

昭和十七年六月十五日
明治大学長

告示

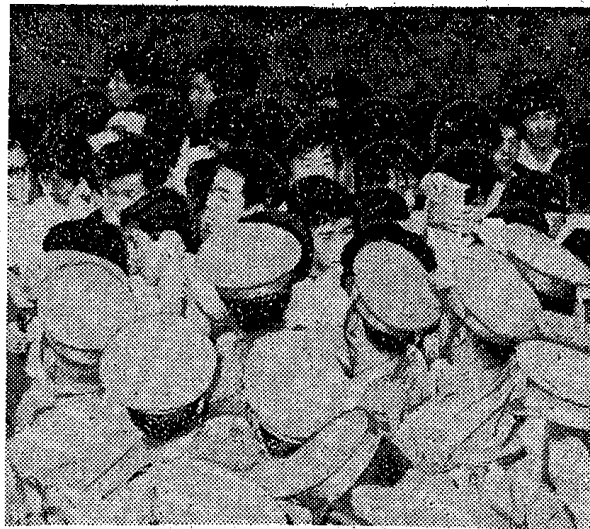
去る五月十七日東京教育会学生委員会に於いて離脱闘争に対し、本会が客席部職員会の機軸増徴、学費増五七条により、五名のより懲戒処分とする。

昭和十七年六月十五日
明治大学長

学長宅に百人がデモ

7日機動隊と衝突、四人検挙

学生会中央執行委員会(会間部)学生自治会)では、七日正午から和泉校舎中庭で「処分撤回、学長団交要求」の集会を開き、約百人がバス二台で中央大学学生会館前に結集し、駿河台本校に向けデモ行進を行なった。デモ隊は大学院前で、処分反対、学長は団交に応じよ、とシュプレイコールで氣勢をあげ、この日行なわれていた政



経学部処分者の父兄面接会場である十号館の木下半治学部長室に押しかけた。ここで、処分不当の抗議をしたが同学部長が応対しないため、学生は学館中庭に引きあげ学長宅にむけバス二台で出発した。

午後五時過ぎ練馬区桜台にある小出学長宅付近に集結した学生はデモ体制を組み、シュプレイコールをあげ学長宅に向った。しかし学長宅付近で待機していた練馬署員・機動隊に阻止され衝突、激しいもみ合いが起き、公務執行妨害などで学生四人が検挙された。この機動隊の介水によりデモ体制を分断された学生は、学長宅から約百メートル離れた路地まで後退し、再度学長宅に向かおうとしたが同宅前を機動隊が固めていたため、西武線・桜台駅に向け激しくチンクザグデモを行ない、五時三十分駅前に到着、総括的な集会を開き、午後六時頃解散した。【写真は学長宅付近で警官隊と衝突する本学のデモ隊】

二地区で座り込み

処分撤回、学長団交要求で

学苑会中央執行委員会では六月三十日より、大学院前に無期限の座り込みを入った。これは「学費紛争処分撤回」「学長団交の要求」を掲げて行なわれたもので、二部の各学部自治会が交代で午前九時から午後十時まで教人が座り込んでいる。大学院前には同中執の旗や各学部自治

会旗、処分撤回・教授会との団交、などの要求文を大書した立看板などが立てられ、通行人に資金カンパと署名を呼びかけている。また、この座り込みに入った六月二十日、午後二時、藤崎学生部長名により、立ち退き勧告が出されたが学生側は拒否した。なお七月六日にも同様な勧告が提示された。

学苑会で、全学投票

19・20日の授業ポイコットで

学苑会中央執行委員会(夜間部学生自治会・橋次征宏委員長)文四)では七月十九日、二十日の両日、「処分撤回」、「教授会・学長団交要求」、「二・二協定実質化阻止」のため授業ポイコットの抗議行動を行なうことをこのほど決定し、十日より、両日の授業ポイコットの是非を決めるため、二部全学生による全学投票を開始した。

この投票は十七日まで続けられ、この結果によって三分の二以上の支持が得られれば十九、二十日の両日の授業を全面的にポイコットする予定である。また、この投票と同時に処分についても、二・二協定実質化についての理、教授会団交についての三原についてのアンケートも付記されるようになっており、二部学生の総意が判明されるものとして注目されている。この投票の結果は十八日午後には判明するものとみられる。

このハンカーストライキに入った学生は田口直人君(法三)退学処分)と酒井和夫君(政経二)の二名で、翌四日正午から鬼塚隆文君(商四)も加った。しかしながら雨の中でのテント生活のため体力の消耗が激しく、六日午前には酒井君が、午後には田口君が、翌七日には鬼塚君も倒れ、近くの関医院に収容された。その後三君の経過は良好で二日後には退院した。